

あらゆる戦（いくさ）において勝利をもたらすものは時宜によって必ずしも同一ではない。尉繚子の云う所の、道（道理）・威（威厳）・力（戦力）がこれである。例えば兵は道理を以て勝つことがあり、威厳を以て勝つことがあり、戦力を以て勝つことがある。全ての戦は、その宜しきに随うべきものである。道理を得ていない時に、道理によって勝とうとし、威厳がないにも拘らず、威厳によって勝とうとし、戦力を得られない時に、力によって勝とうとするのは無謀である。道理を得ることができれば道理によって勝利し、威厳を得た時には威厳により勝利し、戦力を得たならば、力によつて勝利する。これを権（状況を急変させ一挙に勝敗を決する決め手）による勝利という。何事においても、その時の権を知らなければ利益はもたらされない。

突然に軍を出動させるときは、最初に兵の言行によつて尽（ことごと）く権（我の勝ち目）を用捨すべきである。例えば進めば利があると思われる軍にあつて、士卒の心機が進もうとしなければ、我が心に任せて進んではならない。その兵が勇気を欠いているにも拘らず、強いて進んだとしても何の利があるだろうか。この時に士卒の心を勇ましくさせ、落ち込んでいる味方の鋭気を回復させることは、将軍が兼ね備えた才覚と時の権（我の勝ち目）とによるべきものなので、負けるべきはずの軍が勝ち、勝つべきはずの軍が負けるのも、ただ将軍に任せられた役目なのだと思わねばならない。兵を勇ましくさせて勢いを備えたとしても、敵が戦を挑まず、徒勞に終るようなときには、速やかに陣を撤去して我が軍の陣形や状況を敵に知らせてはならない。敵がこれを知った時には、奇中の奇を出せ。奇の根源は、常に現存するものの中に於いて微妙な習わしが有る。嗚呼、何と恐れ多いことであろうか。我独りこれを知っているながら言外に出さなければ、奇を上手に發揮する者は天地にも計られず、人にも計られず、進退・行往・語黙・動静、皆自由にして、さらに事の道理の外に独歩する者である。自分ひとり得て、自分ひとりで行う。別の人にこれを求めてはならない。